

国有化闘争の背景

(2)

ねがいはいせめて三池なみに

忘れさられる山野の遺族たち

昭和四十年六月一日昼十二時四十分ごろ、三井鉱山の第三次合
理化によって第二会社化された山野炭鉱でガス爆発がおこり、二
百三十七名のうち一瞬のうちに火焔で、あるいはガ
スでつぎと死にたえた。その遺族たちはどうしているのだろ
うか？まるで炭鉱の廃坑と化した炭鉱地帯にとりこまれた遺族
の実態を探ってみたい。編集部

主人の体は冷たかった

いま、山野の遺族対策として誘
置された「第一靴下」という工場
に訪れている遺族は、いまではお
よそ六十人。

五百人ちかい若い女子労働者の
中で訪れている。その中の一人A
さんの生活をたずねた。

Aさんは爆発の日、昭和四十年
六月一日、常一帯の御主人をいつ
ものように送りだしていた。

「ふたねのフミヨちゃん
ねえ」と

ふたねのフミヨちゃんとい
ふのが事故があつたおじさん
の妻。

そのとき、ちょうどテレビで三
時のニュースがはじまった。そし
てその最初

「山野炭でガス爆発があり五百
名の入坑者のうち現在までに死者
一人、重傷者一人……」と報告し
た。

なにか胸がわきがして、子ども
をつれて堅坑のところに走って上
がっていった。行ってみると、す
でに、もう何人かの遺族がはこび
だされているが名前が誰れか会社
は発表もしない。

堅坑をとりまいていた家族が口
々に「名前をよべ、名前がわから
んなら安全灯の番号をよべ」と要
求した。

それから名前や番号がよばれた
補償とは名ばかり
たつた一人の子どもと二人でそ
の日からAさんは残された。Aさ
んの夫は炭鉱のヤマを点々と渡り
あるき一年前に山野に移ってきた
のだった。

つもる遺族の怒り

原因もついにあいまいに

したが、前に立っていたおじさん
が「名前が呼ばれたときは生きて
るとき、番号が呼ばれたときは死
んで上がったとき」と教えてくれ
た。それからAさんは、どうか御
主人の名前を呼んでくれとばかり
いつた。

補償とは名ばかり
たつた一人の子どもと二人でそ
の日からAさんは残された。Aさ
んの夫は炭鉱のヤマを点々と渡り
あるき一年前に山野に移ってきた
のだった。

退金はゼロ、弔慰金五十万、
労災補償金百万とちよつと。これ
の協定は大概つぎのようなも
のである。

一、第一靴下の労働条件について
は十分説明する。遺族が正当な
理由で離職したときは再就職あ
つせんを会社が責任を持って行
なう。

二、昭和四十年十二月一日以降正
当な理由による就労できない場
合、その期間待機手当として日
額二百五十円を支給する。休
三、災害原因の説明については関
係官庁により明確になった時点
で行なう。

四、遺族の住宅は集約し(災害
半年後の十二月末日まで)修理
は入居前に可能な限り行な
う。その後の修理については第
一靴下関係者は第一靴下にて行
なう。それ以外の者については

夜になり、さらに夜はふけて夜
の十二時半ごろになった。そして
とうとう一つのタンカが上がって
きたとき「Aさん……」と名前を
呼ばれた。

「ああ、生きて上がってきたく
れた……」Aさんははげれるタ
ンカにとびつき、タンカがのせら
れた救急車にいっしょにとびの
つた。早く夫にひとこと言葉をかけ
てみたいと思つたが、救急車の中
は真つくらで頭がかわらない
い。スッポリとかぶせられた毛布
の下にそつと手を入れてみたら、
Aさんの夫は冷たくなつていた。
そのまんま、Aさんは涙を失い
夫といっしょに病院にはこぼれて
いた。

行なわぬ。

五、福利補助については、第一靴
下以外の就労者は昭和四十一年
五月末まで(災害より一年間)
とし、第一靴下就労者は昭和四
十一年一月一日以降(災害後半
年間)は第一靴下で補助する。
六、以降の取り扱いについてはそ
の時点で別途協議する。

会社補助もなし
遺族対策で誘致された第一靴下
は従業員はいまでは約五百人、そ
のうち遺族は六七十名にしかす
ぎない。

白い化繊の糸で靴下をぬき、そ
れを染色して製品化する工場、
三池の遺族対策の両工場にて、
賃金は極端に安い。

Aさんの場合、日給五百四十円
満勤すると皆勤手当として三分
づつ、一日休むと精勤手当が一
日分しかつかない。二日以上は手
当はない。

Aさんは十二月には公休を四日
も出で二十九万九千九百円
当が三分づつ、それでも手
取りは一万七千七百円だった。(月
賦代五百円をのぞいては特別に差
引かれるものはないのだが)

一月は親戚の不幸で二日休み、
公休は休んだので一万二千七百円
にしかならなかった。

Aさんたち遺族も三池のように
一日三百円の会社補償をせよと要
求しようという声が上がったが、
どうとうウヤムヤになつてしま
つた。

子供を家にとこめて
夫婦そろつても物価高で苦
しい生活なのに、これでは体を無
理して日曜も出勤しなくてはなら
なくなる。ところが公休出勤の人
は朝六時から二時までの勤務につ
かなければならない。だからAさ
んは八才になるフミヨちゃんを
だねわっているあいだに起き、玄
関に外からカギをかけ、隣りのお
ばさんにカギをあけて出ていく
「夫妻二人でも主人が寝込ん
だときと同様、会社幹部には何の
責任も問われず、原因もウヤムヤ
にしてもカギかけて出なくてはいけ
ない。せめて会社が三池なみに遺
族のことをしているというのなら
一日三百円の補助を山野でもたず
べきなのに……」と持つていきよ
うがない怒りをAさんは語った。
また、ある遺族は就職して一年
目に中風でたおれたが、就職先の
健康保険で治療し、半年間で労災
補償が打ち切られ、その後何の補
償も受けていない。

山野炭の堅坑、第2会社として操
業をつづけている山野は、いまま
災害がたえない

だれもが休んで病弱するの
に、子どもが七度も八度も熱を出
してもカギかけて出なくてはいけ
ない。せめて会社が三池なみに遺
族のことをしているというのなら
一日三百円の補助を山野でもたず
べきなのに……」と持つていきよ
うがない怒りをAさんは語った。
また、ある遺族は就職して一年
目に中風でたおれたが、就職先の
健康保険で治療し、半年間で労災
補償が打ち切られ、その後何の補
償も受けていない。

なんとか責任追及を
山野の遺族の中には、たしかに
「いまさら、いろいろいってもど
うせ、どうなることでもないの
で……」という人もいるが、三池
の遺族たちには、たしかに

三池の闘いに涙
山野の遺族たちの口から異口同
音に出ることは

「三池の遺族や主婦の人たちが
よく闘ってくれたのに、私たちは
何も出来なくて申し訳ない。テレ
ビで闘いの様子を見たたびに涙を
ながします」ということである。

いま、炭鉱では、最後の石炭政策
といわれる第四次石炭政策の実施
をまわって、百年間日本の資本主
を支えてきた石炭産業から最後の
資本の引き上げが行なわれよう
としている。

そして、いまでも、炭鉱はす
でに炭鉱の遺跡であり、その中でス
クラップ化された労働者だけがど
りのこされている。

この姿は炭鉱の仲間たちのもの
ではなく、ほかならぬ三池の姿で
もあるのだ。

私たちは、このような石炭政
策、このような社会、このような
労働者の状態を許さないために
も、国有化闘争に力強く立ち上
がらねばならない。

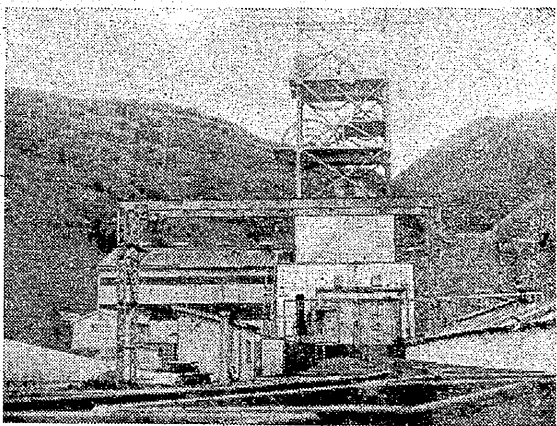
もたされて、立たされる。祖母の
ぬい(北林谷栄)が、学校へ怒鳴
りこんで、校長にくつてかか
る。「どうして私たちは、人間扱
いされないのか」と。すると、
校長は「解放令が出ているから
(明治四年)差別はあり得ない」
というばかりである。たしかに、
明治政府は、古い身分制度を廃止
はした。けれども、そのかわり天
皇を中心とする皇族、士族、平民
という階級をつけ、部落民は、新
平民として、結局は差別されるよ
うになるのである。

資本主義的國家体制が解除しな
い限り、人間が人間を差別するこ
とはなくならないだろう。

「映画「橋のない川」は、佳作
えの大河小説をもとに、一部、二
部の少年編を八木保太郎がシナリ
オ化したものだが、同じ日本人の
皮膚の色をしているのに、部落民
にたいする、その差別のあつた
に、静かな怒りとその不合理を強
く訴えている。

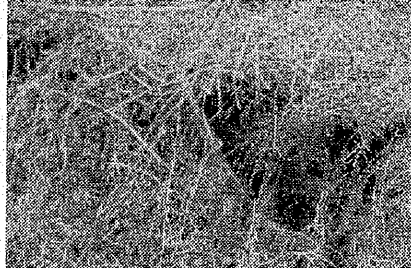
奈良盆地の一角には、いまも貧
しい未解放の、小森という部落が
あるが、映画は明治末頃の話であ
る。この人たちは、草履つくり
でその日をすごすのがやっとのこ
とである。

「映画「橋のない川」は、佳作
えの大河小説をもとに、一部、二
部の少年編を八木保太郎がシナリ
オ化したものだが、同じ日本人の
皮膚の色をしているのに、部落民
にたいする、その差別のあつた
に、静かな怒りとその不合理を強
く訴えている。



山野炭の堅坑、第2会社として操
業をつづけている山野は、いまま
災害がたえない

子供を家にとこめて
夫婦そろつても物価高で苦
しい生活なのに、これでは体を無
理して日曜も出勤しなくてはなら
なくなる。ところが公休出勤の人
は朝六時から二時までの勤務につ
かなければならない。だからAさ
んは八才になるフミヨちゃんを
だねわっているあいだに起き、玄
関に外からカギをかけ、隣りのお
ばさんにカギをあけて出ていく
「夫妻二人でも主人が寝込ん
だときと同様、会社幹部には何の
責任も問われず、原因もウヤムヤ
にしてもカギかけて出なくてはいけ
ない。せめて会社が三池なみに遺
族のことをしているというのなら
一日三百円の補助を山野でもたず
べきなのに……」と持つていきよ
うがない怒りをAさんは語った。
また、ある遺族は就職して一年
目に中風でたおれたが、就職先の
健康保険で治療し、半年間で労災
補償が打ち切られ、その後何の補
償も受けていない。



名もない小ヤマの炭坑

差別されつづける人民 今井正作品「橋のない川」

この映画、つまり、序篇では、
小森の少年編を八木保太郎がシナリ
オ化したものだが、同じ日本人の
皮膚の色をしているのに、部落民
にたいする、その差別のあつた
に、静かな怒りとその不合理を強
く訴えている。

奈良盆地の一角には、いまも貧
しい未解放の、小森という部落が
あるが、映画は明治末頃の話であ
る。この人たちは、草履つくり
でその日をすごすのがやっとのこ
とである。

「映画「橋のない川」は、佳作
えの大河小説をもとに、一部、二
部の少年編を八木保太郎がシナリ
オ化したものだが、同じ日本人の
皮膚の色をしているのに、部落民
にたいする、その差別のあつた
に、静かな怒りとその不合理を強
く訴えている。

奈良盆地の一角には、いまも貧
しい未解放の、小森という部落が
あるが、映画は明治末頃の話であ
る。この人たちは、草履つくり
でその日をすごすのがやっとのこ
とである。

「映画「橋のない川」は、佳作
えの大河小説をもとに、一部、二
部の少年編を八木保太郎がシナリ
オ化したものだが、同じ日本人の
皮膚の色をしているのに、部落民
にたいする、その差別のあつた
に、静かな怒りとその不合理を強
く訴えている。

奈良盆地の一角には、いまも貧
しい未解放の、小森という部落が
あるが、映画は明治末頃の話であ
る。この人たちは、草履つくり
でその日をすごすのがやっとのこ
とである。

「映画「橋のない川」は、佳作
えの大河小説をもとに、一部、二
部の少年編を八木保太郎がシナリ
オ化したものだが、同じ日本人の
皮膚の色をしているのに、部落民
にたいする、その差別のあつた
に、静かな怒りとその不合理を強
く訴えている。

奈良盆地の一角には、いまも貧
しい未解放の、小森という部落が
あるが、映画は明治末頃の話であ
る。この人たちは、草履つくり
でその日をすごすのがやっとのこ
とである。